

令和6年度 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2階大会議室

R 7. 2. 7 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 高知市保健所長挨拶

3 新任委員紹介

4 会長・副会長の選出

会長：高知市歯科医師会 田岡 太郎 委員

副会長：高知市立小中義務教育特別支援学校長会（高知市立一宮小学校長）松岡 マミ 委員

3 議事

第三期高知市健康づくり計画における歯科口腔保健の取組：①令和6年度の取組状況

事務局より説明

質問はなし

第三期高知市健康づくり計画における歯科口腔保健の取組：②令和7年度の方向性

事務局より説明

【田岡会長】

事務局より、高知市の現状と令和7年度の方向性について説明があったが、20ページの令和7年度の方向性について、高知市の現状を踏まえながらみなさんにご意見を伺いたい。

まず、フッ化物洗口実施施設数増加と併せて、口腔機能育成のための園でのあいうべ体操の取組を開始するとあるが、高知市の現状では、3歳児はむし歯は減ってきているが、不正咬合も多く、ぶくぶくうがいをしている児が減ってきているという結果があった。コロナの影響もあってか、令和5年より令和6年は12歳児のむし歯が増えていた。永久歯のむし歯予防にはフッ化物洗口の実施施設数の増加がまだまだ必要である。

フッ化物洗口実施施設数増加と併せて口腔機能育成のための取組を進めていくことについてご意見を伺いたい。

水口委員、あいうべ体操を園で広げていくために効果的な方法と、他の園の状況も分かれば、ぶくぶくうがいの実施についてやフッ化物洗口開始に向けての状況について教えていただきたい。

【水口委員】

昨年、高知市で全国保育士会研究大会があり、参加した会場で、オリジナル曲に合わせてあいうべ体操を広めており、その県で大ブレイクしているという発表があった。

高知市でも、何か歌に合わせて体操を行うことを広めていけば、もうちょっと周知され、認知に繋がるのではないかと思う。

【田岡会長】

フッ素洗口も今、歌に合わせてやっているところが多いと思うが、園児とかには、受け入れがいいと聞いたことがある。よかったら行政の方々、歌で広めていく方法を検討してみてもどうかと思う。

あと五台山保育園では、フッ素洗口をやっていると思うが、他の園や園長会などで、フッ素洗口やぶくぶくうがいなどの話や、実施状況、トラブルなど聞いている内容等あれば教えていただきたい。

【水口委員】

園長会の中で、やっている園に案内してもらったりもしている。

また仲の良い園長先生には、フッ素洗口がすごく良いということを紹介させてもらって、今年も何件か始まりそうだと聞いている。トラブルは全然今のところ聞いていない。

3歳児で水うがいの練習をして、4歳児からフッ素のうがいを始めており、特にクレームもなく、やりたくないという家庭では、水でうがいをするように勧めている。特に問題なく進んでいると思う。

【田岡会長】

続きまして和食委員、高知学園短期大学で保育園指導に行った時に、ぶくぶくうがいが出来ない子が多くなっていることを目の当たりにしたとか、実感したことはあるか。

【和食委員】

コロナが始まってから保育園で歯みがき実習を行っていないため、ぶくぶくうがいが出来ないと感じることはなかったが、うがいの指導は行っている。来年度からは歯みがき実習も復活させようと思っているため、そういったところを感じることもあるかもしれない。

【田岡会長】

園などで、あいうべ体操を広めていくために効果的な取組など何かあるか。

【和食委員】

現在、高知市内では保育園指導を14園に行っており、数年前からあいうべ体操を指導しているが、本学の実習としては1日だけの指導になるため、通りすがりの指導という形に

はなってしまうている。保護者の方へのお便りにも書いてはいるが、継続してもらおうということは今のところ、年に1回の介入だけでは難しいと思う。これから継続していくにあたり、先ほど言われていた歌とかがあれば、年の近い学生が指導に入った時に、子供の受け入れがすごくいい。もしくは、チラシなど媒体を園に置いて、継続してやってもらうというような働きかけなら、本学で行うことができる。

【田岡委員】

やはり歌がキーワードになりそうなので、よかったら検討してみてもどうかと思う。
沼田委員、歯科医師会として、意見とか質問とかあればお願いしたい。

【沼田委員】

高知市歯科医師会は、昨年の校長会に引き続き、今年は、3月に民間と市立の保育園園長会、5月にPTAの総会に、それぞれ講話に行かせていただいた。

この口腔保健検討会がきっかけで、みなさまと繋がり、講話の実施に至ったということを改めて実感している。

その時にも話をしたが、やはり子どもの現状としては、むし歯はだんだん少なくなってきたけれど、口腔機能の問題が出ている。そのため、フッ化物洗口を、むし歯の「菌」の予防だけでなく、筋力の「筋」の向上にもつなげようという内容を講話の中でお伝えした。その後、園長会や保育幼稚園課、PTAの方で、反響や、何かフィードバックがあったかどうかなど、その後の反応を聞かせていただきたい。

特にPTAの方は、皆さんすごく目を輝かせて頷かれていた。やはりこれだけ親御さんたちは、子供のことに興味があるのかということ、話を聞いて感じたので、ぜひそのあたりを聞かせいただきたい。

【田岡会長】

保育幼稚園課の方から、報告をお願いしたい。

【保育幼稚園課】

昨年の3月に、歯科医師会から園長にお話をしていただき、フッ化物洗口の効果に対する理解は、保育所の職員の方にも広まっており、あいうべ体操の方も、だいぶ広まっています。

ただ、このフッ化物洗口を新しくスタートするということまで今年度なかなか行けなくて、理由としては、園の生活が、今やっていることで手一杯であり、保育士たちも、園長も、新しいことを始めるというハードルが高く、スタートができていないということが正直なところである。

保育幼稚園課としても、やはり園が納得して、自分たちでやる必要性を感じてやってみようと思って手を挙げてやってくれるのが一番だと思っている。

納得していないのにトップダウンで始めてしまうと、そこでまた問題が出てくるのではないかと思うため、少し時間はかかっているが、理解を広めてからスタートできるように、これからも取り組んでいきたいと思っている。

【田岡会長】

理解というのはなかなか難しいのかもしれないが、我々も10年以上こういった会を開催し、フッ化物洗口の重要性は謳ってきた。民間の園ではかなり進んできている実情もあるため、できれば市立の方も頑張っていて、広めていただけたらと思うので、またご検討いただきたい。

続きまして、松本委員。我々歯科医師会がPTAの総会で説明に行ったその後の反応があったら報告お願いしたい。

【松本委員】

総会のときに来ていただいて、15分ぐらいプロジェクターで映しながら丁寧な説明をしていただいた。保護者の反応としては、「歯みがきや口腔ケア、予防が大事である」ということや、フッ化物洗口の実施に行政の補助もあるということを知り、是非自分の学校でもやってもらいたいという声が多かった。そんな声ばかりだった。

親の方はすごくやってもらいたいですが、それぞれの学校へ持ち帰り、役員会等で管理職に話をしたが、なかなか実施には至っていない。実績としては1校増えたということだが、これは僕らの働きかけで増えたかどうかは分からない。

学校側のできない理由としては、大規模校では、蛇口の数が足りないという話が出る。

1クラスに5個から6個ぐらいの蛇口があるが、30人ぐらいがそこへ集まると大変な行列になるが、行列になってもいいのではないかと思ったりもする。

あと、やはり、先生の負担を増やしたくないという声もだいぶあったようで、いろいろ理由はあるが、新しいことを始めるのに二の足を踏んでいる印象だった。

前回かその前の会の時に話をした、先生が駄目なら生徒会はどうかという件で、中学校の生徒会にも話をした。子供たちはやってみようという反応だったが、その後どうなったかを聞くと、「生徒会として1年間に取り組む内容が大体決まっていて、新たにそういったことを始めるのがなかなか難しかった」とのことだった。年間の取組が決まる手前のタイミングで生徒会に話をすると、もしかしたら取り組んでくれる学校があるかもしれないというところまできている。

【田岡会長】

松岡委員、小学校側の意見として何かあればお願いします。

【松岡委員】

フッ化物洗口を園で広めていく話を聞いて、やはり小学校も同じ悩みがあるなと思って

聞いていた。

昨年度、沼田先生に校長会で話をさせていただいたが、学校の方もフッ化物洗口に関してすごく興味を持った状況もあり、いい方向に向くのかなと思ったところもあったが、現在は、そういう声もなかなか聞かれなくなったという状況であり、やはりもう一度、校長会とか、養護教諭の研修会などで共有してみてもどうかと思う。その際に、実施校での取組にあたって工夫した点の部分を効果的な数字を交えて「これだけいいものなんだ」という根拠を持って、繰り返しお伝えすることが大切だと思う。

校長会では昨年度お話をいただいたが、養護教諭の研修会では久しくお話していないと聞いている。養護教諭は若い先生に代わっていつている状況もあり、フッ化物洗口を具体的に知らないという方もいるかもしれないので、校長会でも周知し、そこからあまり時間を空けず養護教諭の研修会で話をしていくと、管理職と養護教諭共々理解し、話が進めやすくなるのではないかなと思う。

もう一点、興味深かったのが、資料 19 ページ「令和 5 年度フッ化物洗口実施率」高知市の幼稚園保育園認定こども園の実施率が 39%、小学校が 33%。他の圏域と比べるとすごく低い。どうしてかと疑問を持った。各学校に実施の判断を任せるのではなく、他の市町村の取組を参考に、高知市として、政策の中に入れていくということも、一歩進んだ取組になるのではないかなと思う。

【田岡会長】

先ほど保育幼稚園課の方から、園の先生が手一杯であったりだとか、学校の先生方も納得いかないに進まないのではないかと、というようなお話があったが、松岡委員からもお話があったように、現在は、実施の判断は学校任せで、各学校単位で、やる、やらないというのを決めていると思うが、私もこの委員をやらせてもらって 10 年以上になり、進んではもちろんいるが、少しずつしか進んでいないというのが現状だと思う。

例えば教育委員会や行政等々が積極的に進めないと、なかなか難しいのではないかなと感じるところがある。

学校教育課の方に質問だが、学校教育課としては今のやり方のままでいくのか、今後進める手だてみたいなのがあるのか、教えていただきたい。また、学校歯科医や歯科医師会が、協力できることがあれば、教えていただけたらと思う。

【学校教育課】

先ほど保育幼稚園課の方の話とも似たような話になると思いますが、教育委員会としても、フッ化物洗口の効果や重要性というところは理解しており、ぜひ学校の実施率を上げていきたいという思いは持っている。

ただ先ほど保育幼稚園課の方でもあったように、松岡先生が言われた、校長会の周知や養護教諭の研修会ということも必要だが、やはり学校の教職員や保護者のそれぞれの理解があって、いわゆる合意形成をしていった上で進めていくということが大事なのではない

かと考えている。保護者子どもたちが、安心して、安全にできるというところを、共通認識を持って進めていく必要があるのではないかという思いがある。

10年ほど前は、1校2校だったところが、今現在14校まで増えてきている。

見方によれば、まだこのぐらいの数字かという見方もあると思うが、10年後の60%という目標値を考えた時に、10年後に60%というよりは、もっと早い段階で60%を目指していくというぐらいの仕掛けを何か考えなくてはいけないかなという思いはある。

例えば、単純にただ、やりましょうというよりは、園の実施状況等を把握していき、他の市町村の情報を得て効果があるという必要な情報をもらった上で、実施している園が多い小学校に学校教育課の方から仕掛けていくことを考えている。または、現在、実施していない学校の中でも、来年度あたりは進めていこうかな、検討したいかなと思っている学校、または、現時点で検討している学校、まだ考えていない学校、それぞれ段階があると思うので、そういったところをきちんと把握した上で、まずは前向きに考えている学校へ働きかけていくことを考えている。

新しいことに取り組んでいくことへの抵抗感みたいな話も先ほど出ていたけれど、学校の現状でいうと、人が不足しているので大変といった声もある。

単純に、実施しましょうというだけでは、やはり負担感を感じる教職員も一部でくるので、言い方は適切ではないかもしれないが、強硬な進め方をすると、また別の問題を生んでしまうような懸念もあるのではないかと思うところもある。

学校にも、効果や重要性をきちんと理解してもらった上で、合意形成を得ながら進めていきたいと考えている。

【田岡会長】

他市町村のデータもそうだが、高知市だったら五台山小学校などは、データをきっちり取っている成功事例もある。他市町村の意見を聞くのももちろん大事だと思うが、身近に成功された学校もあるので、そういうところのデータを参考にされてはどうかと思う。

確かに合意形成というのも大事だと思うが、同じ事業、同じやり方をいつまでも続けていくのはどうかとも思う。どこかで今のやり方に踏ん切りをつけることも必要ではないかと思うので、事業の進め方を検討してほしい。

【田岡会長】

では、続きまして方向性の2つ目、3つ目の「働く世代への取組 企業への働きかけ」「成人歯周病検診の対象年齢に20歳、30歳を追加する」について一緒にご意見を伺いたい。報告の中でも若い世代への周知の機会が少なかったとあった。大学生、社会人になると自分で歯科医院へ行かなければなかなか歯科検診を受ける機会はなくなる。

目標にもある若い世代、働く世代の未処置歯を減らすことや、歯肉に炎症所見のある人を減らすためには、歯科医院に行くことが大切である。

20歳、30歳の成人歯周病検診が始まることはよいきっかけになると思うが、まず検診を

受けようと思わなければいけない。若い世代、働く世代への効果的な周知方法や働きかけについて、それぞれの立場でご意見をお願いしたい。

まず、大野委員。歯科衛生士会として、企業への取り組みなどされていると思うが、行ってみた反応や今後の課題などがあれば教えてほしい。

【大野委員】

今、総合保健協会を通じて働きかけ、企業へ指導に入っている。指導時の反応としては「今まで知らなかったことを知ることが出来た」という声の反面、健康管理担当者と実際に受けた従業員の方の意識に相違がある。従業員の中には、検診を受けることによって仕事の時間が割かれるという声もあり、そこが大きな課題の1つであるという話が出ている。

歯周病の話聞いてよかったと思う人もいれば、その話を聞く機会にまで至らないのは大きな課題だと思う。

それともう1つの大きな課題としては、最近外国人就労者の方が多く、外国人の方向けの媒体を歯科衛生士会では準備ができていなかったのも、対応できる指導媒体を作る必要性があると感じている。

【田岡会長】

和食委員、20歳の成人歯周病検診、大学内で学生への働きかけはお願いできるか。若い世代や働く世代の歯周病予防の取組として、学生実習の中で取り組めそうなことはないか。

【和食委員】

まず、成人歯周病検診について大学内で働きかけるというのは可能である。

チラシなどがあれば、周知をすることができると思う。もちろん学内の掲示板すべてに掲示することも可能ですし、学生にはオリエンテーションを必ずしているので、そういったところで、2年生にあたるちょうど20歳になる学年、もしくは3年生に配布することは可能である。

本学の歯科衛生学科の教員が、他学科の授業も持っていたりしているのも、そういった中で、お話をすること、必要性を伝えることも可能なので、働きかけをすることができると思う。

あと実習の中で、若い世代、働く世代への取り組みができるかというところについては、学生実習となると少し難しいところがある。授業のカリキュラムの関係があるので、できれば成人期などの実習も入れたいという希望はあるけれど、なかなか企業の方に実習に行ける機会は少ない。過去には、企業の健康まつりなどのボランティアで、学生が参加したことはあるので、ボランティア参加でしたら学生動員は可能である。

【田岡会長】

本日は、協会けんぽの松平委員が、欠席だが、健康増進課の方で、事前にご意見を聞いているということなので、健康増進課より報告をお願いしたい。

【健康増進課】

松平委員に、日ごろの保健指導の中で歯科に関する相談を受けることはあるかということでお話を伺うと、特定保健指導対象者は指導時間も短いため歯科の相談まではないのが現状とのことで、会社によっては、指導対象者にはならない若年の方対象の健康相談をする場合もあり、その時の保険者の判断にはなるが、トピックスとして歯科の内容のブラッシングや歯科検診のすすめ等について働きかけたことはあるということだった。

高知市の歯周病検診を勧めているかの問いには、現在は勧めるところまで至っていないとのことだった。

行政が企業へ働きかけるにはどのような取組が求められるかの問いには、今すぐにはいけないが高知市と協力し、働きかける効果的な方法を検討していきたいとのことだった。

【田岡会長】

他にご意見はないか。

【沼田委員】

この産業の分野、職域世代というのは、私も力を入れてやっているところだが、この壮年期と言われる年齢は、子供の教育や介護などに関わる世代だと思う。

そういった世代の方々が歯科に関する認識がどこまであるかということ、5ページでも書いてあるように、1年間で歯科検診を受けた人の割合が約55.8%。私自身も企業の方々、様々な職種にアンケートを取っているが、職域世代が1年間で歯医者に行く割合は、約4割だった。その中で、歯がしみる方は約5割、歯磨きをしたときに出血をする方が約5割である。ということは、しみる、出血といった隠れた歯周病の兆候を示す方々が非常に多いといえる。

また、12ページにちょっと興味深い報告内容があったが、保護者が子どもの仕上げみがきをしなくなっている。この要因はどこにあるかと考えた時に、今、職域世代というのは約6900万人、もう来年再来年には7000万人を超えと言われていて、共働きが増えて、仕事をする家庭が非常に増えてきている。そんな状況の中で、子ども達の口の中をどう教育するかといった時に、まず自分達が自分の口の中を知らないという方が、これから非常に増えてくるのではないかということが懸念される。

こういったことを踏まえて、職域世代に対して、どのような形でアプローチをしたらいいかということも、我々歯科医師会も常に考えているが、例えば、健康増進課の成人保健担当の方とかは、成人にスポットを当てた取組については検討されているか。

【健康増進課】

成人保健の分野では、働く世代、職域に向けての健康づくりのところは、生活習慣病予防も含めて進めていきたいと思っている。出前講座といった形で企業の方に口腔保健のことも併せて、アプローチをしていきたいと考えている。健康講座で話を聞くだけではなく、健康チェックのようなことも行い、短い時間で興味を持っていただけるような内容を検討しながら、職域の方に入っていかれたらと思っている。

【田岡会長】

続きまして方向性の最後の「災害時の口腔ケアの必要性についてあらゆる機会を捉えて周知する」ですが、高知市では出前講座を行っているということでしたが、まだまだ申込件数も少なく、災害時の口腔ケアの必要性についてはまだまだ広まっていない状況ですが、災害時の口腔ケアの必要性を広めていくために必要なことについてご意見をお願いしたい。

高崎委員、医師会では、最近災害についてすごく取り組まれているということだが、今後の取り組みについて、少し教えていただきたいのと、災害時の口腔ケアの普及啓発に必要なことなど、もし何かあればご意見お願いしたい。

【高崎委員】

昨年度の能登半島地震で、口腔ケアの必要性については明らかになってきているが、災害当初は歯科医師会、歯科衛生士会が避難所に関わることがまずできない。高知で南海トラフ地震が発生した場合、県外から来るルートはほとんどなくなるため、専門職が口腔ケアに関与することがまず難しいため、その間、自前で何とかしなければいけない。専門職の関わりなしで、災害に遭った1週間ぐらいを一般の人だけでどう凌いでいくかということ啓発しておかないと、大変なことが起こるのではないかと思う。

能登の場合でも、災害によって亡くなった方が多いが、災害関連死というのが後からどんどん増えてきた。災害関連死の中で誤嚥性肺炎もかなり多く、発災後の口腔内の衛生環境悪化が原因になっている場合が多いと思うため、その辺を専門職が関与する前に、自分達で何とかすることができるようことを考えていかなければいけない。

口腔ケアのチラシを拝見させていただいた。備えておきたい口腔ケア用品がリストアップされているが、発災直後は、保険証、マイナンバーカード、お薬手帳も、何も持ち出せなかった人がほとんどで、実際こういうことがあっても持ち出せることがほとんどないと思う。口腔ケアに必要なごく基本的なものは、災害対策として準備しておくのはどうかと思う。災害発生時に歯ブラシを持って外へ逃げる人はいないため、この辺から何か準備をしておかないといけないと思う。

【田岡会長】

確かに、入れ歯も置いていく方が多いので、歯ブラシを持って逃げる人は多分いないと思うが、持ち出し袋とかに、マウスウォッシュや歯ブラシ等、新品のものを1つ入れて

いただくように啓発していけたらいいのかなと思う。

高知市歯科医師会としても、口腔保健支援センターからの委託で、医科歯科薬科の連携事業もしているのですが、その事業の中でもそういった啓発を今後できていったらよいのではと考えている。

では、植田委員、薬局で災害時の口腔ケアのチラシを掲示しているところもあるという話を聞いているが、災害時の備えについて、口腔ケアの必要性とか、普及啓発の状況など、教えていただきたい。

【植田委員】

口腔ケアのチラシを、薬剤師会を通じて、市内で 190 軒ぐらい薬局がありますが、会員薬局には配布をさせていただいている。実際の活用状況については、なかなか把握できていない。多分あまり積極的にうまく活用されていないのではないかとこのように感じている

【田岡会長】

例えば誤嚥性肺炎や、糖尿の方など、口腔ケアが必要な方がいると思うので、そういったリスクが高い方への働きかけについて、今後医歯薬が連携して話を進めていきたいと考えている。ご協力をお願いしたい。

【植田委員】

ぜひお願いしたい。

【田岡会長】

沼田委員、高知市歯科医師会の取り組みや、普及啓発に必要なことをなど、意見があればお願いしたい。

【沼田委員】

高知市歯科医師会としても、災害の備蓄を今後どうしていくかということが 1 つ課題に挙がっている。高知市の議会でもその意見が先日出たのではないかと思います。

口腔ケア用品の備蓄については、高知市歯科医師会や高知市が備蓄していたとしても、インフラ整備やその時の状況によっては各避難所に行き届かないことが起きるため、先ほど高崎委員がおっしゃったように、最低限の口腔ケアグッズを、自治会レベルで保管する方向に進んでいけないかなと考えている。

そして、もう 1 つは先ほども話が出てきていた、発災から 2 週間程度経てくると、歯磨きができない、口腔ケアができないという状況の中で二次的な被害で起こってしまう誤嚥性肺炎。能登半島地震の時に、石川県の病院の先生が、「一昨年に比べて約 3 倍以上の人数の通院があった」という報告もあった。

そのため、口腔ケアの重要性というものを認知するために、医歯薬連携推進事業で、誤

嚥性肺炎についての研修会を昨年度実施した。今年度中に、誤嚥性肺炎についてのリーフレットを作成予定である。そこでもやはり災害というキーワードを入れて発行し、市民に向けて啓発として活用していく予定である。

医歯薬関係者の中では、災害に関する共通認識が持てると思うが、それだけではなかなか市民への周知につながっていくのは難しいため、そこはやはり行政が入ってこないと非常に難しいので、医歯薬関係者だけの事業ではなく、今後、行政なども連動していただくと非常によいと思っている。

最後に、能登半島地震の際は、現地に私も行かせていただいた。やはり学校が避難所になっているケースが非常に多く、その学校も何校か回らせていただいた。

そういったことで、学校に関しての質問だが、松岡副会長、学校では災害対策などを、学校の生徒だけではなく、避難所になった場合には、どういう展開をしていくかというのを教えていただきたい。

【松岡委員】

避難所になった場合の実施体制については、私の学校の地域では避難訓練では、まだ、避難所自体をどういう風に作っていかうかというレベルで、これからどうしていくかを考えている途中である。今日お話を聞いていて、災害時の口腔ケアの出前講座があるということを知り、ぜひ本校も取り入れて、子どもたちや保護者にお話をしていきたい。

その流れで地域の方々にも、お口が健康であってこそ、命をつないでいくものであり、被災した中でも食べ物を食べて美味しかったと思える気持ちのモチベーションが生きる力や色々なことにつながっていくのではないかと考えるため、災害時の健康に関して、校区で早速取り入れて地域に広めていきたいと思う。

今後、紙コップと洗口液が備蓄されるのであれば、水と一緒に保管しておくというようにすることも積極的にしていきたいと思う。

【田岡会長】

先ほど沼田委員からも話があったが、市長が少し前に、災害時の口腔ケア対策において、高知市歯科医師会の方に歯ブラシを提供してくれないかというお話があった。歯科医師会としては歯ブラシを持っていないため、提供することは難しいが、先ほども話が出たが、避難する時に、歯ブラシを持って逃げる人はなかなかいないため、歯ブラシの予算を立てて購入し、避難所になりそうな所に備蓄しておけば、歯ブラシ一本あれば、なんとかケアはできると思う。マウスウォッシュなどももちろん大事だが、できることから、今後の予算等に組み込んでいただいて、少しずつでも増やしていったらいいのではないかと思った。

では続きまして、大野委員、高知県歯科衛生士会として、災害時に組織として活動するための取組等を行っているか教えてほしい。

【大野委員】

今年度、災害時の取組として各支部で、高知市歯科医師会と一緒にこれから話を進めていこうと思っている。

1つは、働き盛りの歯周病予防の取組の中で、リーフレットを作成し活用しているが、裏面に、災害時にこういったものを準備するといった内容を盛り込み、啓発活動を行っている。

もう一つ方向性として、災害時歯科保健活動の歯科衛生士養成ということで、コーディネーターの養成を積極的に始めている。講義だけではなく実際その場における活動の研修会を、前向きに計画を立てているところである。

その他、指導する機会があれば、最低限必要な口腔ケアグッズのことも話をしている。

また、歯科衛生士会としての災害用の備蓄として、歯ブラシを何百本かは事務所に準備している。

【田岡会長】

それでは松本委員、PTAとして取り組めることや今後必要だと思うようなことがあればご意見をお願いしたい。

【松本委員】

災害対策として、PTAの予算で、学校に水やクラッカーなどを備蓄している学校は結構ある。今日のお話の中で出た、口腔ケア用品について、生徒数の歯ブラシや、マウスウォッシュは1つあれば何人かで使えるため、PTAが購入する備蓄品の中にお勧めしたらいいなと思った。

備蓄品を購入する際には、賞味期限があるものなどはローリングをしている。毎年や3年ごとにローリングをしているようなものもあり、生徒に持ち帰らせ、災害時の備蓄の話が家庭でもしてもらおうような取組をしているため、そのローリングの中に口腔ケア用品を含めると、家庭でも話をする機会が増えるのではないかと感じた。

【田岡会長】

私も子供の頃、乾パンを持ち帰り、食べたような記憶がある。おいしくないなと思いつつも、やはり考える機会にはなると思う。歯ブラシにしても、そうそう腐るものでもないためローリングすることはないかもしれないが、1本渡せば、1か月2か月は使えるもののため、最初は経費がかかるだけで、あとはそれほどお金がかからないため、ぜひ学校でも備蓄してもらったらと思う。

その他、ご意見はないか。

【大野委員】

ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりという話だったが、今日の話の中では、

途切れていて、つながっていないと感じた。高知市としては、母子保健課、保育幼稚園課、学校教育課、保健医療課などあるが、実際にそういう課があれば、ライフコースのアプローチができるはずだが、高知市としての考え方と、もう1点、3歳児健診の受診率を分かれば教えていただきたいと思う。

【健康増進課】

歯科保健の部分については、保健所の中に口腔保健支援センターを設置して、全体の状況を見据えながら、関係する課にアプローチし、それぞれの部署で取り組みができるよう、一緒に考えてつないでいくという役割を担っている。

口腔保健支援センターの職員は、健康増進課に所属しながら、歯科医師は、母子保健課に兼務、学校教育課には併任がかかっており、そういう中で、保育幼稚園課等とも相談しながら、フッ化物洗口の取組を保育園から小学校につないでいたり、3歳児健診や学校歯科健診の結果をもとに保育幼稚園課や学校教育課に働きかけ、一緒に考えている。

また、高齢期の方では、歯科衛生士が基幹型地域包括支援センターに兼務がかかっており、介護予防事業の中で、オーラルフレイル予防の視点を持ってもらうよう働きかけ一緒に取組を行っている。保険医療課の方とも成人期の働きかけや、一体的実施を一緒に行うなど、連携して取り組んでいる。

口腔保健支援センターがつなぐ役割を担い、それぞれの部署を支援し、一緒に取り組んでいるところである。

【母子保健課】

手元にあるのが、令和4年度の結果だが、3歳児健診の受診率は93%である。令和5年度はもう少し伸びている。未受診の方には、必ず受診勧奨をしており、100%を目指して、組んでいる。

【田岡会長】

他にご意見はないか。

【松本委員】

先ほどデータのところで、小学6年生でむし歯の数が全国でより多いという結果があったが、単純になんで全国に比べて高知市はむし歯が多いのか。

物流の問題もないし、経済の問題もないような気がするが、何か要因があるか。

【健康増進課】

小学校の低学年は、高知市でも保育園のフッ化物洗口の実施率が上がってきているため低学年のむし歯は全国と比べても減ってきている。

中学校では、高知市は三分の一が私立に行くため、市立だけのデータになっている。

むし歯は生活習慣の乱れが大きく影響してくるが、小学校高学年からむし歯が増えている現状である。

【沼田委員】

小学校6年生でむし歯が増えてくる感覚はある。高知市は特に私立を受験する子どもが多いのが特徴で、小学校5、6年生になると塾に通っている子も多くなり、歯科医院に来ている子たちの中でもクリーニング中に寝てしまう子がいる。何時に寝ているかを聞くと、10時とか11時とか遅い子では12時という子もいる。そこまで勉強していると、生活習慣も乱れるし、また、夜間には唾液の量がかなり減るため、むし歯菌を抑える力が弱まり、むし歯になりやすいお口の中になる。その時に夜食を食べたりすると、さらにむし歯になりやすくなる状況ではないかと考えられる。

中学受験をする県は、四国でもまれ、全国的にもなかなか珍しい県だと思うので、客観的に見ても、小学校5、6年生で生活習慣の乱れが出てきているのを感じている。

【田岡会長】

私としては先ほども言ったように、五台山小学校の成功例があるので、それを高知市内の学校で広めていけば、むし歯は減っていくと思っているので検討してほしい。

【事務局】

閉 会